

保育計画成果報告書

法人名等	特定非営利活動法人 むくの木
施設名	つめくさ保育園
報告者（役職）	佐越 直人（主任）
住所・連絡先	神奈川県川崎市川崎区昭和 1-5-8 ☎044-201-9789 E-mail: info@mukunoki.main.jp

○タイトル（保育計画）

四季を感じ、物語を楽しみ、情緒的・創造的に遊びこむ子ども達

○主な助成備品

・砂場の枠とパーゴラ ・園庭の植樹 ・絵本

1. 保育計画策定の目的

つめくさ保育園は、小規模保育事業所「熊谷乳児園」の卒園児の受け入れ先としての役割をもって開園した30名定員の認可保育園です。住宅街の中でも子どもにできる限りの自然体験と創造的な乳幼児期を過ごすことを大切にしながら保育を行っています。

つめくさ保育園の園庭には固定遊具はありません。子ども達は赤土の園庭をはだして駆け回り、どろんこ遊びや水遊びを楽しんでいます。0歳のころから水や砂、土を五感で感じながら育つことは、子ども達の体をしなやかで強いものにします。そして何よりも自ら働きかけたくなるこれらの自然環境は、子ども達の「意欲」を育てます。私たちは、水・砂・土は子どもの働きかけに応じて変化する素晴らしい教材の一つであるととらえています。

住宅街の中であっても、自然環境の中で思いっきり自己表現ができること。その喜びを仲間と共有することで、自分たちの暮らしを情緒的・創造的に繰り広げていくこと。子どもの発想や想像の世界を丸ごと受け止める職員環境があること。四季の移り変わりを肌で感じ、安心できる場所で豊かな感性を育てていくこと。以上が今回の保育計画策定の目的であり、子どもの未来を支える為の、私たちの保育です。



2. 具体的な実施内容

A:砂場の枠とパーゴラの設置

赤土で覆われた園庭の一角にしっかりとした枠で囲んだ砂場をつくりました。子ども達は自分の居場所を園庭の中で作り、遊びを展開しています。枠で囲われた砂場ができたことで、自分たちの遊び場として選択する子ども達があります。

パーゴラは夏の強い日差しから子ども達を守るように砂場に設置致しました。

工夫や力を入れた点

- ・保育者がモデルとなり、遊びを楽しく伝えること。その際子どもと応答的に関わること。
- ・子どもの発達の様子に合わせて、砂を掘り起こしてやわらかくしておくことや、あらかじめ山を作っておくなど、子どもが働きかけやすい環境を用意していること。
- ・暑い時には日陰で遊ぶように環境を作ることや、水にたくさん触れることで感覚的にも心地よい過ごし方を伝えていくこと。



0歳児、1歳児は砂の触感を楽しむように手を伸ばして砂に触れ遊びます。

2歳児になれば見立て遊びを保育士と一緒に楽しもうとする姿があります。保育士の真似をしながら、砂との関わり方を学んでいきます。



3歳児は目的意識をもって遊ぶ姿が多くなります。砂場の山に水を運んで流すようなダイナミックな遊びもするようになります。乳児期に遊びこんできた子ども達は、上手に体を使うことができます。

4歳児や5歳児では仲間と協力してトンネル作りをする姿や、ごっこ遊びの世界に入り込んで全身を使って遊ぶ姿があります。

B:園庭の植樹

四季の移り変わりを感じられるように園庭に樹木を植えました。開園一年目でまだ緑の少ない園庭に樹木が植わると景色が一変し、温かみが園庭から伝わるようでした。

工夫や力を入れた点

・植樹は根づくことに長い時間が必要となる為、「まだ赤ちゃんだから優しくしようね」と子どもと一緒に関わりをつづけている。



ムクロジ、クワノキ、エゴノキ、ドウダンツツジ、ヤマブキ、ユキヤナギを植樹しました。

C:絵本の購入

絵本の蔵書数をたくさん増やしました。絵本を選ぶ工程は、大人の価値観に偏りがないように複数の職員で行いました。子どもの様々な思いに共感するもの、驚きや発見をくれるもの、暖かく受け止めてくれるもの等を中心に選びました。

工夫や力を入れた点

・絵本の扱いを保育の中でどのようにしていくのか話し合いました。なるべく大人が読んであげるものにしたい。子どもだけでじっくり見る時間も作ってあげたい。本の扱いは丁寧に伝えていく。ページが破れてしまったときは、絵本のお医者さんとして大人が子どもの前で治しています。

・乳幼児期の子どもの空想の世界を見守りながら、大人は子どもの発信をあたたく受け止め、一緒に驚いたり、考えたりすることを大切にしています。



子どもと大人が絵本の楽しさを共有する姿。活動前や寝る前に読む絵本は子どもの楽しい時間の一つです。



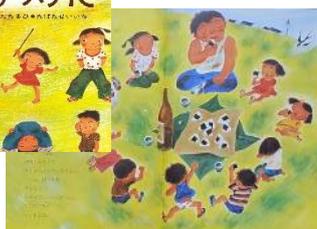
絵本を見ると
思わず体が動
いて模倣遊
びにつながり
ます。



物語の役者に
なりきって、
相撲大会



絵本みたいにやってみたい！海賊ごっこの舞台は園の外の世界へ広がっていきました。子ども同士でアイデアを出しあう姿、勇気をだして行動する姿、仲間と助け合う姿が自然と出てきました。子ども達の発想を活かして、遠足にもいきました。出先で物語の登場人物から手紙がくると大盛り上がりです。



3. その成果と評価

A: 砂場の枠とパーゴラの設置について

砂場環境を園庭の中に作ったことにより、自分で遊ぶ環境を選ぶ姿が多くなりました。乳児の場合はさりげなく保育士が砂場へ誘うことはありますが、幼児にもなれば、自分が働きかけたい場所は自分で見つけます。そしてパーゴラで作られる日陰はまだ動きが機敏ではない乳児にとって、じっくりと同じ場所で遊びこむ時間を保証してくれました。砂に子どもが働きかけるとき、何度も実験をするように繰り返します。そのとき、側にいる保育士に自分の見つけた発見や喜びを伝えてくれます。子どもの遊び環境において、このように遊びこむ時間が保証されることは大切です。

また砂場ができたことで、様々な発達段階の子どもを受け止める環境がより強化されました。砂は土より働きかけやすく、水より手ごたえがある素材です。子どもは自分の「楽しい」が作り出せる環境で内から湧き出る意欲を満たしていきます。活動の様子から様々な年齢の子ども達が自分のやりたい事を表現していたことが分かります。自分から働きかけること、そのことで変化が生まれること、そこから更なる意欲が生まれること。このサイクルの中で子どもは成長していきます。

B:園庭の植樹について

植樹されたばかりの頃は幹が細く葉もない木がほとんどでしたが、園庭に植物がきたことで生まれる温かみ、わくわく感は覚えています。子どもは身の回りの変化にすぐ気が付きますから、大人と一緒にわくわくしたことでしょう。新緑や花が咲き始めると、子ども達は発見を楽しんでいた様子です。何よりも子どもと一緒に大切に見守っていることで、子どもの情緒の育ちにつながっていると感じます。

まだ若い樹木が多い為、葉や花や木の実を遊びで扱うには月日が必要です。子どもと保育園と一緒に大きく豊かに成長していけるように大切に関わっていかれたらと思います。そして子どもが身近な環境で四季の移り変わりを感じることでできる園庭であることや、子どもたちの心の中に優しく残るような園庭を目指していきたいです。

C:絵本の購入について

絵本の蔵書が増えたことによって、子どもから「あの本一緒に見たい」というような発信が多くなりました。子どもと保育士と一緒に絵本を読む時間を共有することで、子どもとの愛着形成を深めることにつながっています。また絵本は「こんな冒険がしてみたい」「この絵本みたいに遊びたい」などと子どもの意欲をくすぐるものです。実際に子どもと絵本の世界を楽しんでいるときには、子どもの自発性、個性的な発想、自分の考えを伝えること、誰かと想いを共有することなどが自然と導き出せることがたくさんあります。

あるとき保育園で戦いごっこが盛んになることがありました。子どもの持つエネルギーと日本の現代のテレビ文化が結びつくと戦いごっこになりがちです。しかし戦いごっこは自己満足することで懸命になり、乳幼児期の子ども同士の関わりが広がりにくい一面があります。そこで子ども達に合った絵本と一緒に楽しむと、すぐに絵本の世界で仲間とつながりだしました。そこから始まる遊びは絵本の世界のように創造的です。絵本は私たちに、絵や言葉を通して豊かさのきっかけを教えてください。

4. 今後の課題と展望

今回の助成を受けた保育活動を通して、つめくさ保育園の子どもを支える環境がより豊かになりました。

保育活動はいかに環境を整えたとしてもそれを支えるのは人です。自分たちの環境をいかしてどのように子どもと関わっていくのか、自分たちはどのように生きていきたいのか。自分たちの行動を振り返りながら、今日の前にいる子ども達の力になっていくことが大切となってきます。職員で協力して子どもの良き理解者となっていくことが今後も課題となります。助成された保育活動を含めまして、私たちの周りにある環境を大切に育んでいくこと。子どもが満足するまで遊び学び、緑ある園庭が私たちを支えてくれること。絵本のような物語があふれていること。それらのことが子どもの未来をさらに豊かにしてくれると願い展望とさせていただきます。